

## 子供たちと教室をつなげるための端末利用について

### 【江戸川区の取組】

#### 不登校児童・生徒の状況

対象生徒は、学校に対して大きく抵抗感を感じてはいない。学習することや教職員と会話することも楽しんで行うことができる。しかしながら、教室の中の集団に馴染むことができず、自宅で課題を行うか、別室で過ごすことが多くなっている。対象生徒自身も学校生活をよりよいものにしたいという気持ちを強くもっている。

#### 具体的な支援

対象生徒は、集団を苦手としているため、別室で過ごすことが多い。江戸川区では、全小・中学校にエンカレッジルームを設置し、不登校傾向の児童・生徒の居場所を確保している。温かい空間にするために照明を暖色にし、調光が取れるようにしたり、個別スペースと小集団スペースといった状況に応じた居場所を確保できるように環境づくりの工夫を行ったりしている。

対象生徒はエンカレッジルームにて、教職員と談笑しながら学習することができたが、教室という場合は、ハードルが高く、距離が離れていく一方であった。

学校は、少しでも対象生徒と教室を近づかせ、学級での所属感を感じられるように、学習者用端末を活用し、授業のオンライン配信を実施した。最初、音楽の授業の視聴を行った。音楽にしたのは、生徒たちの活動場面も多く、対象生徒もその一員となって同じ活動をしやすいと考えたからである。

対象生徒は、他の生徒の様子をじっと眺めるだけでなく、楽しそうに傍らいた教職員と談笑することができた。

少しでも、同級生と同じ学びができたことに喜びを感じただけなく、教室との距離を縮めたようであった。



#### 成果

自宅や別室において授業の視聴や各教科の課題配信を行うことができ、学校と途切れのないつながりをもつことができた。

#### 課題

子供たちの状態は、日によって違い、常に端末でつながることが効果的であるとは言えない。支援ツールの一つとして、個々の状態に合った、他の方法も探っていく必要がある。